

Title	戸田大和守肖像
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.4 (1926. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	口繪
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19261100--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

戸田大和守肖像

(贈 陸 寮 藏)

戸田大和守、名は忠重^{タカシゲ}。始め岡瀬の姓に入り岡瀬和三郎と稱す。後、戸田姓に復歸せり。宇都宮の藩主戸田氏の一族にして文化六年に生る。幕末、攘夷尊王の闢題、上下に喧論せらるゝ時、藩主戸田越前守忠恕の在府家老として江戸に居る。時に幕府、贈侯に命じ時局に處すべき献策を募る。忠重、宇都宮藩士縣勇記の秘策を承け、文久二年八月十五日、藩主の名を以て山腹修補策を提出し、幕府の奪るゝ所となる。同十月忠重上洛、山腹奉行の重職に就き、從五位下大和守に叙せらる。爾來、帝陵の探查と修理に盡力甚だ努め、善に經營の困難を嘗む。功竣るに及んで、天恩優渥、幕府その主藩の分知を許し、諸侯の中に加ふ。その間諱勝ありと雖、修陵史上古今未曾有の大業を遂げし功績は亦以て没すべからず。王政新まるの後、朝堂の要職に居り、遂に華族の列に入り子爵を賜はる。明治十六年三月廿日薨す。

